

たけた 市議会 だより

NO.50

平成30年8月1日発行



写真提供者

尾登 憲治 1949年生まれ竹田市在住

ネムノキ

Profile

1974年 株式会社テレビ西日本入社
2009年 〃 定年退職
2010年 フリー映像作家として独立
2015年 竹田市地域おこし協力隊任命

代表作品 映画 宝満山、久住高原に生きる
活 動 2014年6日間にわたる
21作品の「連続上映会」
を福岡市にて開催

- 一般質問 2～8
- 予算特別委員会 8
- 第2回定例会の議決結果 9

一般
質問

市政を問う

6月11日・12日・18日、11人の議員が一般質問を行いました。その内容を要約してお知らせします。
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。

給食費と医療費の無償化について



山村 英治

問 幼稚園、小中学校までの給食費の無償化と、高校までの医療費の無償化に竹田市が取り組み、安心して子育てが出来る環境をつくることで、子どもを増やし、移住定住者を増やす。このことを少子化対策、過疎化対策のひとつに据えることは出来ないか。

企画情報課長 中学校までの医療費の無償化は、竹田市が今年から取り組んでいる。高校までの無償化は、県下で1市が取り組み、また入院費のみ無償化は1市で取り組んでいる。子育て環境の充実も移住定住の重要なテーマと考えているが、子育て支援住宅の建設、こども診療所設置、三世帯同居を促す補助、未就学児への食事療養費助成、ロタウイルス、流行性耳下腺炎予防接種助成等、竹田市独自で取り組んでいる施策もある。婚姻率とか、出生率の低下、所得格差など、国として取り組まなければならぬものを起因とする給食費の無償化や、子どもの医療費の無償化等を、定住促進の施策として、地方自治体が行っていることには違和感がある。予防医療の問題については、先行事例を参考にして、他都市の状況を見ながら、市民のみなさまの納得を頂けるかたちを研究していきたい。

問 竹田市に人を呼び込み、子どもを増やしていく対策として給食費無償化や、高校までの医療費無償化に取り組むことに違和感を覚えない。今年から取り組んだ豊後高田市は、大きな額のふるさと納税を原資としている。竹田市は、原資を増やして取り組むとして、財政支出はどれだけになると試算しているか。

企画情報課長 平成29年度末で4千5百万円あるさと納税があった。今年から、まちづくり会社に業務委託して納税額を増やす計画だが、高校まで医療費を無償化するとして、6百60万円、幼稚園、小中学校の給食費を無償化をした場合は、新たに6千5百万円の財政負担になると試算をしている。



阿部 雅彦



商工観光振興のための条例制定について

問 竹田市の中小企業を活性化するための条例制定と合わせて、具体的な実践計画を示す必要があるのではないかと。

商工観光課長 目的並びに中小企業の明るいビジョンを達成するために、基本的な方向と具体的な施策を明らかにするアクションプランの策定も重要だと考えている。今後さらに、竹田商工会議所や九州アルプス商工会並びに関係する団体等と協議を重ね、早い段階での条例制定に向けて取り組みたい。

問 竹田市には地酒の代表として、日本酒・焼酎・ビール・ワイン・どぶろくが揃っている。これらの地酒の生産業とその他関連産業の発展のためにも、乾杯条例の制定が相応しいのではないかと。

商工観光課長 先行している他の自治体の実態並びに効果等を調査・研

究をしながら検討していきたい。

教育行政の在り方について

問 新聞やテレビ等のマスコミでも、教職員の多忙化が取り上げられている。人的配置や業務量の軽減等の改善が急務ではないかと。

教育長 超勤実態調査や超勤縮減の具体的提案を労働安全衛生委員会で話し合ったり、県教育委員会からの文書も可能な限り、簡略化するように申し入れをしたりしている。今後も教職員の命を守り、教職員がゆとりをもって働くことができるように、働き方改革における環境整備や業務改善を国や県に申し入れていきたい。

問 若い教職員の働き方についてはどのように考えているのか。

教育長 新採用から10年間、3つの学校を異動する制度は、竹田市の学校にとつては必要である。しかしながら、遠距離通勤の問題、子育て世代の教職員の保育所問題、住居をどこに構えるか等の多くの課題があり、それらの意見は、しっかりと受け止めていきたい。



吉竹 悟



公共施設総合管理計画について

問 教育部門の施設の内「プール」

は経年劣化が著しい。30年以上経過したものは、小学校5校、中学校4校となっている。中学校では、体育授業で使用するほかは、頻度が少ない。費用対効果を考慮すれば、「市民プール」等、一か所に新たなものを建設し、市民も健康づくりで利用できる施設とすることが、将来計画では重要だと考えるが見解を問う。

併せて、中学校6校がこのまま維持継続して単独校であることは、生徒にとつて良い環境であると言えないのではないかと。もはや、統廃合は避けて通ることはできない。早急に議論を深めていく事を望む。

教育総務課長 指摘のように、小中学校のプールは、20年〜40年経過し老朽化対策が喫緊の課題だ。1つのプールを全面改修するには、約3千万円、建て替えすれば約2億円の経費が必要となる。毎年の経費も水道

料等合わせ1校あたり約22万円、18校で年間400万円ほどかかっている。プールの利用も6月〜8月の3か月間と限られている。中学校では、夏休み前の1か月間の授業で10〜12時間の利用である。全ての学校に同規模のプールを維持することは負担が大きい。そこで、近隣の学校同士で共同利用することや、拠点校を決めて、そのプールを維持しながら利用することを考えているところだ。併せて、以前の市民アンケートの中に、市民プールの設置を望む声も多くあった。市民プールが設置されれば、学校における水泳授業と市民の活用により、近い将来、発生する多額の施設整備費を削減できると考える。全国的には、横浜市の拠点校方式や海老名市の市内温水プールの利用を含め、「一校一プール」を見直す検討を始めている自治体もある。

一方で、学校の位置や移動時間などの課題もあるので、学校現場との丁寧な協議も必要である。

課題への対処も考慮しながら、市民プールの設置実現に向けて、関係部署とも協議を始めている。





佐藤 美樹

竹の子ひろばとグランツ周辺の環境整備について

問 グランツ周囲の道路整備計画と竹の子のひろばの交通安全、及び防犯対策は。

都市デザイン課長 拝田原橋の幅員を広げる。竹の子ひろば入り口に飛出し防止の工夫はある。防犯カメラの増設を検討する。

問 竹の子ひろば周辺に移動式軽食販売を出すことの見解は。

都市デザイン課長 利便性向上や活性化の面で有効だと考える。歓迎したい。

問 周囲に流れる旧玉来川の整備はどう行うのか。

都市デザイン課長 水質改善策や、遊歩道整備等を管理主体の竹田土木事務所と協議中。来年度、工事着手の予定。

問 清掃・安全管理の人員を固定で配置できないか。

都市デザイン課長 周辺施設及び河

川を含め、一体的に検討したい。

グランツ開館と国民文化祭について

問 グランツ開館と国民文化祭・全国障がい者芸術・文化祭の市民参加の状況は。

文化政策課長 開館式典に多くの市民が参加できるよう計画している。市民ボランティア、市民企画募集など、市民が主体的に関われる体制をとる。市内全域でイベントを開催し、各種文化団体に参画いただく。

問 両事業において、障がい者への配慮はあるか。

文化政策課長 ボランティアスタッフの介助研修や、オストメイト（人工肛門・人工膀胱のある人たち）対応トイレの場所の周知等に努める。

障がい者福祉について

問 「障がいのある人もない人も誰もが安心して暮らせるまちづくり条例」を昨年9月議会で提案したが、その後の検討状況は。

社会福祉課長 当事者が策定に関わり、施行後に、より実効性のある条例にすることが肝要。議論を重ねたい。

問 障がい者雇用促進の取組は。

社会福祉課長 自立支援協議会で就労支援研修の場を設けた。ケーブルテレビで就労支援施設の紹介を行った。

問 農福連携・林福連携を市の施策として取り組んではどうか。

社会福祉課長 自立支援協議会就労支援部会で受入れ先の開拓と作業の選定を進め、雇用の場を広げたい。

県立高校の定員割れと学力向上支援策について



日本共産党
上島 弘一

問 ここ数年、地元県立高校（竹田高校）の定員割れが続いている。中学校の進学受験指導も大変と思うが、市として定員割れ解消の為に、学習塾を利用した学力向上支援策は考えられないか問う。

学校教育課長 現在、市内各中学校においては、将来どのような職業に就きたいかなど、きめ細かい進路指導を行い、高校受験にあたっている。塾を利用した学力向上支援策は、今

のところ考えていない。

大豪雨に備えての玉来川等、3河川流域の流水対策について

問 平成24年等の大水害は大量の流水が被害を甚大なものにしたが、これに対し、支流を含む3河川流域の流水対策の進捗状況を問う。

農政課長 大水害から市民の生命・財産を守るための流水対策が不可欠として、翌年の平成25年から、玉来川を中心に取り組んだ。所有者や境界及び林道建設また費用などの問題で思うように進まない状況にあるが、今後努力する。

飛田川中央線の道路改修について

問 天神の農村商社わかばの野菜集荷場が飛田川の給食センター近くに移転する。この際利便性を考慮し、市道飛田川中央線の道路改修の考えはないか問う。

建設課長 この路線の改修予定は無いが、懸案として、荒巻橋付近の道路状況については認識している。

買い物・通院難民対策について

問 竹田北部地域も、買い物・通院

等に便利な施策を希望したい。

企画情報課長 北部地域の不便解消施策は検討中である。近いうちに提案する。



首藤健二郎

竹田市総合文化ホールについて

問 どのようなホールを目指すのか。

文化政策課長 「災害からの復興」をテーマに、「感動と活力を生む学びと創造の文化拠点」を基本コンセプトとしている。これまでのような「貸し館」のみではなく、市民が気軽に利用できる拠点を目指す。

問 市民にはどんな活躍の場があるのか。

文化政策課長 「市民ボランティア」の募集を行っている。その他「市民企画応援プロジェクト」として、市民の皆さんの発案、企画をサポートする。

問 運営を「地域おこし協力隊」に頼りすぎているのか。

文化政策課長 これまでノウハウが

蓄積されていなかった。今後は、市民を対象とした人材育成事業を実施し、市内の人材による運営が可能な状況を作り出す。

問 文化振興のための条例はあるか。

文化政策課長 文化振興策を継続的に実施するためにも、条例等の整備について研究を進める。

問 高齢者に対する交通手段の配慮は。

文化政策課長 企画情報課と共に検討している。

姉妹都市とのあり方について

問 合併以前からの姉妹都市である、仙台市、柳川市、中野市との具体的な交流は。

総務課長 音楽姉妹都市として、仙台市、中野市と長年交流している。柳川市とは、北原白秋と瀧廉太郎を繋ぐ、文化交流を軸に交流や研修を行っている。

問 姉妹都市に、竹田南高校や三重総合高校久住校等、特色ある高校をPRし、生徒募集としては。

総務課長 久住校の全国公募と、女子サッカー部も併せて情報発信し、教育委員会へのアプローチも考えら

れる。

ゴールデンウィーク観光について

問 集客が見込める時期に、「食」をテーマにイベントを行ってはどうか。日本一の豊後牛を味わってもらいたい。

商工観光課長 竹田市には全国に誇る農産物がある。来年のゴールデンウィークには、中九州高規格道路も開通している予定。城下町から萩、久住、直入へ回流する、或いは逆へ。「食」を含めた企画、仕掛けを検討する。



佐藤 市蔵

川崎重工業より無償譲渡された市有地の利活用について

問 約40haを住宅用地として断念した経過。針葉樹、広葉樹の割合、急傾斜、緩傾斜の割合は。

直入支所長 造成費が51億円超と一区画の単価が高い。12haが針葉樹で急傾斜、緩傾斜率は半分。

問 市道に近い緩傾斜を整地し、企業誘致を検討しては。

直入支所長 企業による農業参入やピオーネ、ホップ等地域振興を検討。
問 県の災害備蓄施設を県に働きかけては。

市長 伊方原発の事故発生時等でも熊本と大分を結ぶ拠点としても重要な位置にある。滝室坂トンネルも着工するので、今後大分、熊本の会議でも拠点として訴える。

災害に備えての備蓄品等について

問 災害発生時の体制は万全か。水、食料等の備蓄品等は十分か。

総務課長 災害発生時の体制等は、市災害対策本部条例等に定めており万全。県の災害時備蓄物資等基本方針により備蓄。

問 備蓄品の補充と保管場所は、また、ライフラインの対応と、市民への周知方法は。

総務課長 毎年補充。保管場所は、本庁横の倉庫と各支所に保管している。重要となるライフラインは、日頃から各機関と情報交流している。周知は、IP端末等で行っている。

問 市民総参加の訓練を。

市長 訓練は重要であり、地域毎の実施が望ましい。

椎茸生産量日本一の保持について

問 種駒への助成は

農政課長 規模拡大、生産量増の為、助成額を検討する。

問 椎茸栽培についての見解は。

市長 種駒助成を検討する。

中心市街地活性化事業の状況及び、中心部と周辺部の今後の在り方について

問 新図書館と竹の子ひろばの利用状況は。

教育総務課長 7万5千人が利用し、貸出数も倍増した。

都市デザイン課長 休日は、多くの

家族連れで賑わい、市外からも多い。

問 首藤市政十年目に入ったが、中心部と周辺部（荻・久住・直入）の均衡性、今後の在り方は。

市長 就任以来、1市3町の個性を伸ばし、総合力を創る事を基本としてきた。今後もバランスある市政に努める。



学校給食の無償化を



加藤 正義

問 竹田市の学校給食は好評である。美味しくて、安心、安全な給食づくりに給食センターとしての取り組みと、食材の地産地消の面も伺う。

給食調理場長 児童生徒の健康を願い、栄養バランスを考え、予算内で美味しい、楽しい給食をと細心の注意で日々業務に当たっている。

異物混入と、現在22名の食物アレルギーの対応も重要。幾重にも違う目で厳重な検査を実施している。県内産食材の使用率は90・8%。市内産の米、野菜も可能な限り調達している。

問 給食費の滞納の状況は。

給食調理場長 平成29年度分の滞納額は、51件78万1300円、過年度分を合わせると173件491万8473円。

問 子育ての経費軽減に給食費の無償化に取り組んでは如何か。

市長 昭和38年教科書は国策として

無償化されたが、それと肩を並べていいのか疑問に思う。無償化が行政サービスの向上に繋がるという風潮があるが、違うと思う。命に関わる医療費の無償化は、これは理解できるが給食費は、法に基づき受益者負担でいくべきだ。

高校生も練習できる市営球場を

問 竹田南高校、竹田高校共にサッカー部創部で、日常的に練習できる人工芝の市営球場の整備の要望が出されている。また、入田地区小高野自治会からは、農地をその候補地として如何かと要望も出されているが、選択技のひとつとしてどうか。

市長 まずは、既存のグラウンドを使用して頂きたい。直入グラウンドの改修予算は4億円だが、小高野の場合8億5千万円程かかる、費用対効果としてどうなのか。また、道路の拡幅も必要となり、交通アクセスの問題もあるので現状としては、新たな施設を造るのは難しいのではないか。



市道・トンネル・橋梁の改修について



鷲司 英彰

問 劣化により改修が必要な市道はどれくらいあるか。

建設課長 舗装総延長971キロのうち18路線約46キロの改修を予定している。そのうち8路線13キロが整備済み。

問 市内のトンネルと橋梁について、これまでの調査結果について聞く。

建設課長 国の指導により、5年に1度の頻度で、市内の全橋梁とトンネルを調査するものである。橋梁については全429のうち362が調査を終えた。緊急処置が必要な橋が1つ。使用していないため通行止めになっている。早期処置が必要な橋が7か所。予防保全段階の橋が27か所。健全な橋は58か所。トンネルについては、緊急処置が必要なトンネルはない。早期処置が必要なトンネル9か所。予防保全のために処置が望ましいトンネル4か所。橋梁・トンネ

ルとも本年度の残りの点検を踏まえ、長寿命化計画を策定し優先順位を決め補修・修繕を行う予定である。

問 道路改修の判断基準について聞

建設課長 これまでは職員の「目

視」が判断基準であった。客観的判断が必要なことから、道路パトロール車に簡易な装置を搭載し、車を走らせることによる「振動」で、道路の劣化状態がわかるようになった。職員の目視とパトロール車のデータを集計し劣化状態を確認し道路改修計画を策定していく。

旧見玉邸について

問 旧見玉邸の現在の状況はどうか。

企画情報課長 平成25年10月に寄付を受けた物件である。住宅は取り壊しを行った。現在は行政財産として、宅地約600㎡、2階建て建物1棟（延べ床面積約69㎡）、市指定天然記念物「唐椿」、その他所蔵品がある。

問 市の公共施設等管理計画に記載

されているが、どう利用するのか。

市長 建物に関して、柱の組み合わせ等江戸時代の面影があるのではな

いかと考え調査したが、大部分が近代に改修されていた。

この地は、歴史文化の拠点としてストーリーを持った地域としては非常に価値があると考えている。

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録後について



渡辺 克己

問 移行地域は市の全体としているが、緩衝地域に接する地域に重点的な施策の展開が必要ではないのか。市の具体的な目標を設定すべきと考えるが。

観光課長 緩衝地域に隣接する地元地域の活動を重点的に捉えていくが、裾野の広がりを持たせ、広域的な地域振興も考えている。登録後の具体的な目標は、本年4月の推進協議会で「環境保全・人事育成」「観光・産業振興」「PR普及啓発」の3部会が設置された。部会において具体的な目標設定がなされていく。

問 行政と地元の協働が必要不可欠と思うが、どのように考えているのか。

観光課長 具体的な目標設定がなされる3部会への、地元の参加により意思疎通を図りたい。

問 案内標識の設置を早急に実施すべきと思うがどうか。登山者数把握のためのシステムの設置はどうか。

観光課長 各交差点付近に案内板の設置を行う予算を計上している。周遊観光案内板を設置予定としているが、この案内板にQRコードを埋め込み、スマートフォン利用での数把握をしたい。

問 登山道（人道、車道）の整備と駐車場の拡張整備についての実施予定はどうか。

観光課長 車道部分は市道であり建設課と協議する。人道部分の危険箇所は、消防・警察からの情報もあり、本年度中に整備予定である。駐車場は整備済みである。

農村商社わかばについて

問 アンテナショップ出荷協議会の総会で報告のあった「天神の集出荷場」の移転計画について、計画全般

と移転理由を問う。

農政課長 集出荷場を飛田川の森林組合横に移転する。

①狭小のため朝の集出荷時に混雑する②交差点に面しているため危険である③天神直売場の売り上げが少ない④駐車場の共同利用とローソン店舗移転がローソン側からの要望。

問 移転費用、費用の負担者は誰なのか。

農政課長 事業費1億8百万円で（一社）農村商社が建設し、ローソンからのテナント料収入で全額決済の予定。

※生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）について
ユネスコが1976年（昭和51年）に開始した「生物圏保存地域（国内呼称「ユネスコエコパーク」）は、ユネスコ自然科学セクターのユネスコ人間と生物圏（MAB）計画の枠組みに基づいて国際的に認定された地域。

ユネスコエコパークの機能
①保存機能（生物多様性の保全）②経済と社会の発展
③学術的研究支援
個々の機能は独立したものではなく、ユネスコエコパークの機能を相互に強化する関係。この3つの機能を達成するためエコパークの中に、相互に依存する3つの区域を設定。
核心地域：厳格に保護・長期的に保全
緩衝地域：核心地域を保護するための緩衝的な地域・教育・研修・エコツーリズムに活用
移行地域：人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域 参考文書 環境省ホームページ



井 英昭

公共施設の維持管理費について

問 市立図書館の年間維持費は。

図書館長 29年度は約4千400万円、内訳は人件費が2千145万円、書籍購入費等が897万円、光熱費378万円、その他982万円など。

問 歴史文化交流センター（旧歴史資料館）の年間維持管理費は。

文化財課長 人件費1千100万円、管理費が1千330万円の試算に対し、収入は820万円を想定。

問 グランツたけた（旧文化会館）の年間維持管理費は。

文化政策課長 人件費で1千620万円、光熱費などで3千490万円、事務費で200万円を見込み、支出合計は5千310万円となり、収入では貸館事業760万円、その他収入で80万円、差し引き4千470万円を市の負担額と見込む。

問 長期的に公共施設の維持管理費をどう捻出していくか。

財政課長 基本は施設数の削減とな

る。具体的には施設の用途転用、複合化による有効活用となる。次に耐震補強など定期的な修繕工事による施設の長寿命化を図る。そして民間の活用と不要施設の売却・譲渡を考えている。これらが出来ない施設は取り壊した後、土地の売却や貸し付けを行う方針。財政面全般として人件費カットなどの行財政改革で財源確保に努めていく。

住宅政策について

問 市営住宅とその他の公営住宅の現状はどうなっているか。

建設課長 公営住宅法に基づく市営住宅は竹田地区に209戸、荻地区に67戸、久住地区に99戸、直入地区に15戸で、その他を含めると竹田市全体で500戸、入居者数は1千33人、空きは49戸になっている。

問 人口減少と高齢化について、住宅政策にどう反映させるか。

建設課長 本年度「竹田市住宅マスタープラン」を作成する。アンケートで課題を抽出し、急速な少子高齢化や空家増加などの対策を目指す。

その他に久住コミュニティセンターについて質問した。

第2回定例会

平成30年度一般会計補正予算

5億8,144万7千円減額

可決

(総額：209億9,955万3千円)

平成30年第2回定例会・予算特別委員会が6月20日・28日の両日開催され、付託された一般会計予算を慎重審査した結果、全会一致で可決されました。

補正予算の概要

【歳出】

◆総務費	
総合文化ホール開館記念事業費	168万5千円
祖母山ユネスコエコパーク周遊観光コース案内板設置委託料	162万円
竹田市中学生茨木市訪問団旅費	59万2千円
城下町交流館「集」排水設備工事請負費	227万円
◆民生費	
地域共生社会支援体制構築事業	105万円
おおいた子育てほっとクーポン	120万円
◆衛生費	
小規模給水施設支援事業	1,200万円
温泉利用型健康増進施設附帯工事請負費	1,490万8千円
◆農林水産業費	
追加的信用供与補助事業	375万円
中山間地域所得向上支援対策事業	1,752万9千円
◆商工費	
瀧廉太郎記念館トイレ工事請負費	60万円
白水ダムトイレ工事請負費	40万円
観光施設等管理費	△8,983万5千円

◆土木費	
中九州横断道路整備に係る経費	112万9千円
◆教育費	
公立学校等施設整備計画策定委託料	266万6千円
体育センター外構工事請負費	1,532万8千円
歴史資料館費	△5億4,387万6千円

■人件費	
職員の給与カット等	△6,992万3千円

【歳入】

分担金及び負担金	60万円
使用料及び手数料	19万3千円
国庫支出金	△4,113万4千円
県支出金	3,449万5千円
諸収入	861万円
市債	△4億4,620万円
繰入金	△1億3,801万1千円
(財政調整基金)	△1,801万1千円
(公共施設等総合管理基金)	△1億2千万円

平成30年 第2回定例会

平成30年6月4日～28日
議案等の議決結果

条 例 案		
議案番号	件 名	結 果
報告第 1 号	専決処分事項「竹田市税条例等の一部改正」について	承 認
報告第 2 号	専決処分事項「竹田市都市計画税条例の一部改正」について	承 認
報告第 3 号	専決処分事項「竹田市国民健康保険税条例の一部改正」について	承 認
報告第 4 号	専決処分事項「竹田市税特別措置条例の一部改正」について	承 認
議案第66号	竹田市税条例の一部改正について	可 決
議案第67号	竹田市都市計画税条例の一部改正について	可 決
議案第68号	竹田市中島公園名水河川プール附帯施設条例の一部改正について	可 決
議案第69号	竹田市竹田温泉施設花水月条例の一部改正について	可 決
議案第70号	竹田市都市公園条例の一部改正について	可 決
議案第71号	竹田市長湯温泉クアハウスの設置及び管理に関する条例の制定について	可 決
議案第72号	竹田市長湯温泉多目的広場の設置及び管理に関する条例の制定について	可 決
議案第73号	竹田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部改正について	可 決
議案第74号	竹田市在宅寝たきり者等の介護慰労金条例の廃止について	可 決
予 算 案		
議案番号	件 名	結 果
議案第56号	平成30年度竹田市一般会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第57号	平成30年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第58号	平成30年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第59号	平成30年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第60号	平成30年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第61号	平成30年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第62号	平成30年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第63号	平成30年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第64号	平成30年度竹田市水道事業会計補正予算（第1号）について	可 決
議案第78号	平成30年度竹田市一般会計補正予算（第2号）について	可 決
議案第79号	平成30年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）について	可 決
人 事 案		
議案番号	件 名	結 果
議案第65号	竹田市教育委員会委員の任命について	同 意
一 般 案		
議案番号	件 名	結 果
議案第75号	財産の取得について	可 決
議案第76号	久住コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可 決
議案第77号	字の区域の変更について	可 決
請 願 ・ 意 見 書 案		
議案番号	件 名	結 果
請願第 2 号	義務教育費国庫負担率2分の1復元に関する意見書の提出を求める請願書	採 択
意見書案第3号	義務教育費国庫負担率2分の1復元に関する意見書	可 決

全国市議会議長会 15年表彰

去る5月30日に開催された第94回全国市議会議長会定期総会において、市議会議員として15年間にわたり、市政の振興に貢献した功績により、3名の議員が表彰されました。



左から
加藤正義 議員 吉竹悟 議員 坂梨宏之進 議員

議会を傍聴に
いらっしゃい
ませんか



所定の受付簿に住所・氏名等を記入するだけで、本会議や各委員会を傍聴することができます。どうぞ、お気軽においでください。
また、ケーブルテレビでも定例会初日の提案理由の説明と、一般質問及び代表質問の中継を行っています。

傍聴席には限りがあるため、希望者が多い場合にはご希望に沿えないこともあります。

暑中御見舞い申し上げます

公職選挙法の趣旨に基づき、暑中見舞いなどの挨拶状を廃止させていただきます。
また、本年度初盆を迎えられるご親族へのお供物等につきましても失礼させていただきます。
新仏のご冥福をお祈りいたします。

竹田市議会

市議会ホームページ



本会議の会議録や議会の日程、質問項目、議会のしくみと役割など様々な情報を掲載しています。

竹田市議会 検索



あとがき

6月議会が終わった今、
萩、久住、直入、竹田と
順番に全地域の田植えが
完了し緑の田園が心を和
ませる。

7月は豪雨災害の季節、
安全を祈る一方で玉来ダ
ムの早期完成を願う。

今年10月からいよいよ
ダム本体のコンクリート
打設が始まる。これが完
成すれば安全性は格段に
向上し、沿川住民は安心
して日常生活を送れる。

ダムの保水力と田んぼ
の保水力でより安全性は
確保される。田んぼの緑
に感謝すると同時に、い
つまでもこの光景を残し
たいと思う。

編集委員 佐田 啓二